

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570100731		
法人名	株式会社トランスポート		
事業所名	洛和グループホーム石山寺(1F)		
所在地	〒520-0862滋賀県大津市平津1-17-32		
自己評価作成日	令和1年11月10日	評価結果市町村受理日	令和2年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびりした雰囲気マイペースに過ごして頂けるよう配慮している。コミュニケーションに重きを置き利用者様との信頼関係を深めることを大切にしている。個別外出や誕生日の日は利用者様の希望に添えるように意見を聞き、楽しんでもらえるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2570100731-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年1月7日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは気候が良い時期は蓮等の花が咲く近隣の公園への散歩に出かけたり、季節の桜の花見や紅葉狩り等の他、地域の文化祭や祭り等にも利用者と一緒に積極的に出かけています。また個々の希望を聞き馴染みの店での買い物やいちご狩り等、利用者の行きたい場所へ出かける個別外出にも力を入れています。家族へは毎月便りを送り利用者の様子を知らせたり、敬老会を兼ねたホテルでの食事会には毎回多くの家族が参加し共に食事を楽しむ等良好な関係を築いており、家族から寄せられた意見を下に玄関に検食簿を置き閲覧できるようにする等、得られた意見は速やかに反映し取り組んでいます。また職員は利用者と一緒に向き合いコミュニケーションを図ることを大切に思いを把握し日々の中で支援に繋げ、本人や家族の意向を大切にされた看取り支援にも取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「元気で挨拶、明るい笑顔」を理念に掲げ、職員、利用者共に挨拶を笑顔で行っている。	開設時に作成されたホーム独自の理念を大切に継承し、リビングに掲示すると共に毎朝の申し送り時に法人理念と共に唱和し職員が意識できるようにしています。職員の入職初日には込められた意義を伝え共有できるよう努めたり、日々の中で職員は理念に謳われた挨拶や笑顔を意識しながら理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員や地域包括と運営推進会議を通じて、情報交換を行い地域の催しごとに参加させていただいている。8月は、町内の夏祭りに参加。	利用者は地域の夏祭りや敬老会に参加したり、町と区の文化祭の見学や正月には近隣の神社へ獅子舞を見に行ったり、時には認知症カフェにも参加しています。またホームにはフラダンスや手品、箏笛などのボランティアの来訪の他、中学生の職場体験を受け入れており、利用者は交流を楽しんでいます。また地域の防災訓練や清掃活動などには地域の一員として職員が参加をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生を対象とした認知症サポーター講座・福祉体験を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では民生意委員・地域包括・家族に参加してもらい、行事や事故報告等を行いホームでの出来事を報告している。	会議は民生委員や地域包括支援センター職員等の参加を得て隔月に開催しています。利用者や職員の状況、活動報告、身体拘束の取り組みや家族アンケートの結果報告等を行い、意見交換しています。参加者から地域情報を得て夏祭りや文化祭等の行事に利用者が参加できるよう支援に繋がっています。家族へは会議の案内や報告を行っていますが参加は難しい状況となっています。	家族が参加しやすい日時の工夫や知りたい情報を取り入れるなど、引き続き参加が得られるよう取り組まれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	民生委員より情報をもらい、避難経路や会議等の開催を伝達してもらっている。運営推進会議にてホームでの出来事を報告している。	行政に関する問い合わせや質問などは法人の担当者を通して行い、アドバイスなどの伝達を受けています。また感染症などの注意喚起のポスターが届きホーム内に掲示したり、研修案内には希望する職員が参加をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リビング入口にセンサー設置し離脱防止を行っている。他にも1名足元センサー、1名ナースコールを使用し対応している状況。歩行・移乗に付き添いが必要であり、ご家族にも説明し同意書にサインをもらい実施している。	身体拘束に関する法人研修を受講した全ての職員はレポートを提出し研修内容への理解を深めると共に、年に1度言葉による制止などについても法人全体で振り返っています。また毎月行う身体拘束に関する委員会では安全に付き添う為のセンサーの使用等について必要性を検討し、家族の面会時などに報告しています。エレベーターや出入り口の施錠は行わず利用者が自由に行動できるよう見守っています。	

洛和グループホーム石山寺(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回グループ内研修に参加している。参加出来なかった職員には伝達研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている方がいるが、職員による制度の理解は薄いと思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者またはフロアーリーダーが契約時に説明を行い、必要に応じて同意書を記入している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族要望からの意見があった際に運営推進会議にて報告を行い、どのような対応をしていくかを報告している。	利用者の希望は関わりの中で聴き、買い物や食べたい物を献立に取り入れる等都度反映させています。毎年行う家族との食事会は多くの参加を得ており意見を言いやすい関係を築き、面会時や年に1度のアンケート等で意見や要望を聞いています。家族の意見を受けて体操の機会を増やしたり、検食簿を閲覧できるようにする等意見を反映させており、取り組みについては毎月の便りで他の家族にも報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞き、必要に応じ改善に努めている。	職員の意見は毎月のカンファレンスや申し送り時、日々の業務の中で聴いており、カンファレンスでは事前に議題を伝え職員から意見を収集し話し合っています。意見を受けて休憩時間を確保したり、個別ケアに関する意見では検討を重ねながら決めています。また年に2回、管理者による個別面談や年に1度職員アンケートも行い、意見や希望を出せる機会になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足による時間延長が続いている。時間延長が偏らない様にしていたが、疲労もみられていた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	8月より人員不足の為、参加数が減った。		

洛和グループホーム石山寺(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し他施設の職員と交流し勉強する機会があった。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々のコミュニケーションから困っていること、悩み等を聞き、職員間で話し合い要望に答えられるように務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、ご家族面会時や相談事項が発生した際に電話連絡をし、近況報告を行っている。ご要望も伺い検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族面会時や電話連絡の際に、近況を報告し家族の要望を伺い検討しケアを行えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とコミュニケーションを図り、出来ることは協力を仰ぎ実施してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族対応による外出援助など、利用者と家族との関係が途切れず、よい関係が築けているところもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ひ孫様のおられる方もおり定期的に面会に来られ、ご友人の面会もある。	親戚や友人、元同僚、教え子などの来訪時は居室でゆっくり寛ぎ話ができるよう配慮をしています。日々の中で思いを聞き行きつけの洋品店や理髪店、元の職場の近くなどに出かけたり、年に1度の個別外出の日を利用し馴染みの場所へ行くこともあります。また家族と親せきが集まる法事や墓参りなどへ行く方もおり、出かける支度や車に乗る際の介助などを支援しています。	

洛和グループホーム石山寺(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	顔見知りの方もおられ、良い関係が出来ている反面、気が合わない方もおられ、できる限りトラブルにならない様に距離を置いたりしてトラブル防止している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、連絡を頂いた時は話を聞いたりしている。ご逝去された時も、ご連絡を頂いたりしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コニュにケーションを取り思いを聞いたり、記録を遡り言動を把握し望む暮らしに近づけるように検討している。	入居に向けては自宅や病院などを訪問し、どのような暮らしがしたいかや趣味趣向、生活歴などを聞いたり、以前の担当者から得られた情報を合わせてアセスメントにまとめ意向の把握に繋げています。入居後は日々コミュニケーションを図る中で思いに繋がる情報を記録に残して共有し、思いの把握が困難な場合は表情や様子から汲み取ったり、家族にも聞きながら把握できるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・生活歴から望まれている暮らしに近づけるようにアセスメントを行い、できる限りのことは続けられるように務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の持てる力を維持出来る様に、プランに盛り組み、できることを続けてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント時にご家族へ近況を再度お伝えし、ご本人が暮らしていく中で必要なケアを提案、相談を行い作成している。	本人や来訪時などに確認した家族の意向、アセスメントを基に暫定の計画書を作成し、カンファレンスの中で職員の意見を聞き再検討の上介護計画を作成しています。入居当初は3ヶ月、6ヶ月、その後は変化の無い場合は1年毎に見直し、其々の期間の中間に職員の意見を聞きながらモニタリングを行い計画の実施状況を確認しています。見直し毎に往診医や看護師の意見を確認し、必要に応じて反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録へ記入し、工夫点はその都度職員間で話し合い出来る。しかし、プラン内容を記載していても#記入漏れが見られる事がある。		

洛和グループホーム石山寺(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療との連携にて、訪問マッサージを導入している。体調・症状により、往診医以外の専門病院にも受診に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	往診医や訪問看護・訪問マッサージを導入している。他にも周辺のスーパーに買物に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回の往診。他にも体調に変化見られた際にかかりつけ医へ相談し、家族希望の医療機関へ受診をしている。	入居時にかかりつけ医を継続できる事を伝え希望を聞いていますが全員が24時間連絡が取れる協力医を選択し月2回の往診を受け、週に1度訪問看護に健康管理を行ってもらっています。体調が変化した場合は訪問看護師に指示をもらい対応したり、往診を受ける事もあります。専門医への受診は基本的には家族が行い、状況により職員が付き添っています。また希望や必要に応じて訪問歯科や訪問マッサージを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて健康チェックを実施。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関の地域連携課と密に電話連絡し、状態を報告してもらっている。退院時はムンテラを実施。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り対応は現在実施しておらず、入院・退去がほとんどである。重度化にてホームでの看取り希望時はかかりつけ医・訪問看護・ご家族・職員とでカンファレンス実施予定である。	入居時に看取りに関する指針を基にホームの対応について説明し、食事が取れなくなる等重度となった場合は家族や往診医、訪問看護師、職員の四者で話し合い、家族の意向を再確認し方針を決めています。看取支援の際はケース毎に訪問看護師による勉強会が行われ、医師や看護師からアドバイスを受け、家族には付き添いや宿泊などの協力を得ながら支援をしています。年に1度法人による研修も行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを設置。訓練は行っていない。		

洛和グループホーム石山寺(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回の消防機具の点検に加え、年2回消防署による火災時避難訓練実施。	訓練は消火器などの機器の点検を含めて年に6回行い、その内2回は消防署の立ち合いの下、其々昼、夜を想定し通報や利用者の避難誘導、連絡網の確認、消火器の使用方法などを行っています。訓練時は近隣に案内文を配布したり、地域で行われる訓練には職員が参加しています。また水や日々の食材を多めにストックし、カセットコンロや懐中電灯などの備品を置いています。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の性格を把握し、声かけ、ケアを行っている。	定期的に接遇やプライバシーなどに関する研修を実施し、職員はレポートを提出したり、身だしなみや言葉遣いなどを含むチェックリストを用いて日頃の対応を振り返っています。言葉遣いなどについては利用者には不快感を与えていないかなどカンファレンスや日々の中で随時話し合い、不適切な対応が見られた場合は管理者が注意したり、職員間でも注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかけをしたり、選択できるような声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に沿って対応しているが、人員の問題で外出できなかった事もある。その時は利用者とは相談し、日時を決め、後日振り返り対応を行う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が出来る方には服装を選んでもらっているが、出来ない方には職員が準備し対応している状況である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや形状に気をつけている。食べれない方については代用品とし違う物を提供している。下ごしらえや後片付けも進んで手伝ってくださる。	フロア毎に冷蔵庫にある食材を見たり、旬の物や利用者の好みに配慮して献立を決め、時には利用者と一緒に買い物に行っています。利用者は野菜の下処理や後片付け等のできる事に携り、職員も共に食卓に着き談笑しながら同じ食事を摂っています。またお節料理や七草粥、土用のウナギ等の行事食を大切にしたり、家族とのホテルでの外食や個別や少人数で外食に行ったり、蒸パンや大学芋等のおやつ作りも楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	検食簿を確認しメニューが重ならないように注意している。		

洛和グループホーム石山寺(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、行えている。上手く出来ない方は介助にて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用は減らず。排泄パターンを理解し出来る限り自立で行えるようなケアに務めている。	記録から排泄リズムを把握し、排泄のサイン等を見ながら個々のリズムでトイレに行けるよう支援し、日中は重度の方も二人で介助しトイレで排泄できるよう支援をしています。また日中もポータブルトイレを使用する方もおり個々の思いや習慣に配慮したり、排泄用品や支援方法は随時話し合い、時には業者にも相談しながら検討しています。おむつを使用し退院となった場合は早期に元の状況に戻れるよう支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事での改善は難しく、お薬にて予防に務めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声かけのタイミングなど見計らい、本人のペースで入ってもらっている。	入浴は週に2回を目安に午後から一人ずつ湯を入れ替え職員とマンツーマンで会話を楽しみ個々のペースで入浴できるよう支援をしています。支援をしています。季節の柚子湯をしたり、希望に沿って回数を多く入る方や好みのシャンプーやリンスを使用する方もいます。拒否が見られる場合は職員の交代やタイミングを見ながら声を掛けたり、時には家族にも相談しながら入浴できるよう支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調の温度調節、寝具の清潔などチェックし快適に眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情や薬剤師による説明を記録に残し、連絡し合っているが薬の目的は理解しても副作用まで完璧に理解は出来ない職員もいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションは行っていない。歌を歌ったり聞いたりする程度。他は2ヶ月に1回のボランティアによる、フラダンスや由笛演奏、手品を見学してもらっている。		

洛和グループホーム石山寺(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に沿って買い物に出かけている。その他の方は出来る限りホーム周辺の散歩へ出かけるようにしている。	年間を通して天気の良い日はできる限り声掛けし、近隣の公園へ散歩に行ったり、買い物などに出かけています。桜や蓮などの花見や紅葉狩りなどヘドライブを兼ねて出かけたり、家族に声をかけホテルでの外食などの他、敬老会や祭り、文化祭などの地域行事にも出かけています。また個別外出に力を入れており、植物園やいちご狩り、買い物など希望を聞きながら出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をもたれている方おられ、金銭管理はご自分で行ってもらっている。買物時にご自分で支払いをされる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りを利用者で作成し、展示している。	共用空間には行事の写真やクリスマスや正月飾り等を行い、中庭のつつじやもみじ等を眺める事ができ、季節を感じて過ごせるよう配慮をしています。リビングや廊下等の随所にソファを置いたり、利用者に併せてテーブルの高さを調整し寛げるよう配慮をしています。また日々利用者と共に掃除を行い、エアコンの風が直接当たらないよう工夫したり、トイレを分かりやすく表示する等、過ごしやすいよう環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでゆっくり一人で休める環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	模様替え時はご家族、本人と相談を行い、安全に過ごしやすい環境作りに勤めている。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう伝え、筆筒や三面鏡、机と椅子などの持参した物を家族が過ごしやすいよう配置したり、入居に向けて自宅を訪問した際は自宅と同じような環境になるよう配慮をしています。また大切な家族の写真や位牌、趣味の大正琴などを身近に置いたり、絨毯を敷き座卓を置いて過ごす方もおり、これまでの生活習慣を継続し安心して過ごせるよう支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所など、マークではなく利用者様のわかる言葉で看板を作っている。		